



# ちば市老連

安心して暮すことができる長寿社会を目指して

## すべての老年者と 手をつなごう

地域に根ざす組織の拡充運動

### 目次

会長新年会	2
平成九年度活動方針(案)	3
上半期行事予定表	3
会員増強で組織の拡充	4
<b>実践活動レポート</b>	
世代間、地域の交流	5
提言・随想	13
君津の友と交流会	19
<b>特別寄稿</b>	
花いっぱい運動	12
“ねんりんピック” 宮崎大会に参加して	18
<b>追悼</b>	
菅義夫氏を悼む	11
かたく結んだ絆 花見川と北淡町の友愛	20
ひろば	22
編集後記	24

# 会長新年会



威勢よく鏡割り — 平成9年会長新年会

## 健康福祉 都市 づくり 力をあわせ 推進

おだやかに明けた平成九年の会長新年会は一月十七日ロイヤルプラザホテルで開催した。二百人を超える会場は和やかに賑々しく、松井市長をはじめ関係部局長、市議会議長など沢山の来賓の紹介、祝辞がつづいたが、新生会長は六月十五日の市長選挙に向けて「市老連の今日あるは永年にわたる松井市政の賜である」として引きつづき市政のかじ取りをお願いしたいと述べ、大きな拍手につつまれた。

### 【会長挨拶要旨】

ことしは丑年。慌てず急がず、しっかり大地に足をつけて着実にすすむ隠やかな表情は平安を象徴しています。

さきに千葉市が発表した第六次五ヶ年計画の夢いきいき千葉プランにあるように千葉市の六五歳以上の老年者は八万余ですが、松井市長さんの温かな高齢者福祉行政に対し、高齢者の一人として感謝するとともに、市老連は健康福祉都市づくりに力をあわせて協力する所存です。

松井市長、中野市議会議長をはじめ沢山の来賓を迎え、数多くの会長参加の新年会に際し、社団法人三年目に入り酷しい年ですが、明るい笑顔、健康そして豊かな経験を生かして八万余の高齢者の牽引車になっていただきたい。

# 平成九年度活動方針案 (案)

長寿社会となる二十一世紀を目前にして、保健・医療・福祉など諸制度の改善がすめられているなかで、高齢者自らも(社会の一員として)自立と地域社会への参加活動が重要になってきており、老人クラブの果たす役割はますます大きくなります。

市老連は社団法人移行を契機に、社会的責任を自覚し会員相互連携のもと、日常生活の場である地域社会のなかで「健康」「友愛」「奉仕」の全国三大運動を中心に活動を展開し、誰もが明るく心豊かに暮らせる社会を目指して事業を推進してまいりました。

平成九年度は組織の拡大と活動の基盤の充実を図りながら、老人クラブの原点である会員の自主、自立、共同、共助を基本に地域社会に密着した福祉の担い手として、引きつづいて「生きがいと健康づくり」「高齢者の相互支

援活動」「社会奉仕活動」を中心に次の活動項目に積極的に努力を重ねていきたいと考えています。

## 活動項目

- 一、老人クラブ育成指導と会員の増強
- 一、老人クラブ指導者の養成と研修
- 一、生きがいと健康づくりの推進
- 一、社会奉仕活動の推進
- 一、ねたきり0運動と在宅福祉を支える友愛活動の推進
- 一、会誌「市老連」の発行等広報活動の展開
- 一、老人クラブ21世紀プランの推進
- 一、全老連、市老連、社協等各種団体との有機的な連携

### 平成九年度上半期行事予定表

4・8	関東ブロック会議
18	全老連新任研修会
22	市老連理事会
5・15	市老連理事会・会長歓送迎会
20	関東ブロック会議
22	市老連第四回通常総会
26	全老連女性委員会総会
27	全老連理事会
6・3	全老連中央セミナー
10	市老連特選演芸会
11	市老連民謡講習会
13	市老連理事会
18	市老連ブロック研修会
25	市老連レクダンス
26	全老連事務局長会議
7・2	市老連女性部研修旅行
10	市老連理事会
15	全老連活動推進担当セミナー
23	(予備24)市老連ゲートボール大会
8・4	市老連レクダンス
8	市老連理事会
13	市老連会員作品展
17	市老連囲碁・将棋大会
9・2	市老連民謡講習会
9	(予備10)市老連グランドゴルフ大会
12	市老連理事会
20	社会奉仕の日
23	ねんりんピック

# ◎ すべての高齢者と手をつなぐ活動 ◎

## 会員増強で組織の拡充

千葉市の老年人口は一割を超えた。全国平均からみれば千葉市はまだ若い、町を歩く人の五人に一人は高齢者である。

市老連は豊かで明るく安心して暮らすことが出来る長寿社会に向けて、単位クラブの一層の充実を目指す活動を展開する。

「セカンドステージからメッセージ」は皆さんの実践活動を通じて、すべての高齢者が手をつなごうとするアピールである。

高齢者は年ごとに増大し二十一世紀はじめには人口の四分の一になると言われているが、高齢社会は既に現実のものになってきた。

千葉市が平成八年に実施した八六万人ファミリーアンケートの結果が今年一月二十四日の千葉日報にのっているが、急テンポですすむ高齢化への対応が群をぬいている。別表のように六年前とくらべて市民はゴミの問題から高齢者福祉施策へと敏感に反応している。

高齢者唯一の全国組織である全国老人クラブ連合会（会長長尾立子元法務大臣）と傘下の都道府県連合会、政令市連合会、各単位クラブは、会員増強による組織の充実と活動の活性化を至上命題として積極的に取り組んでいるが、わが千葉市老連でも平成七年十一月社団法人設立総会で会員増強の促進を宣言した。

この宣言の行動化が、すべての高齢者は手を結んで安心して暮らせる高齢社会づくりをしようとするキャンペーンパンフレットである。

このキャンペーンパンフレットの作成にあたった広報部はこのパンフレットの活用が会員の増強、組織の拡充を左右す

順位 年度	1 位		2 位	
	平成 2 年	ごみの集収処理	35.1%	老人福祉の充実
平成 4 年	ごみの集収処理	40.6%	老人福祉の充実	32.2%
平成 6 年	老人福祉の充実	33.3%	ごみの集収処理	23.0%
平成 8 年	老人福祉の充実	40.5%	保険医療の充実	24.4%

(3位以下省略)

るとの認識にたつて、活用方法の叩き台づくりにあたった。当然のことながら機関決定を経て区老連、地区連、単位クラブ各段階への実践要請になるわけだが、偶々市老連第6号の編纂が先行したため、叩き台の一端を記したことを附記する。

一、パンフレットはすべての会員にもれなく配布する。

単位クラブ（会員）は地域の実情に  
じ自主的に活用方法を決める。（生涯  
の友として個別の勧誘、地域の活動参  
加のなかで未加入者の加入を促進する  
など）

二、関係諸団体に配布する。

1、千葉市町内自治会連絡協議会（各  
区連協、地区連協町内自治会九二〇）

2、千葉市民生委員協議会（各区民協、  
地区民協民生委員一、一八七人）

3、千葉市社会福祉協議会（各区事務  
所、地区部会（地区部会四三）

4、行政関係広報部門

活動の主体となる単位クラブ活動の  
側面援助のため、市老連、区老連、地  
区連はそれぞれの段階で各団体に對し、  
老人クラブ活動の一層の理解と支援を  
要請する。

## 実践活動レポート

# 世代間、地域の交流

社会は大きなうねりのなかにある。

老年人口はふえつづけ、生産年齢人口は減少しているのだ。

社会的に一つの大きな役割を終えた老年者だから、ゆったりと余生を楽しむのが心  
情だが、そうした生き方は変ろうとしている。

老年者の福祉・医療・介護など社会負担は生産年齢人口（15歳～64歳）の上に重く  
のしかかっている。少しでも軽くする努力は理屈なしに老年者の生き方になる。明  
るく楽しいクラブづくりと共に、住みよい環境づくり、地域に密着した活動のなかで  
社会参加を果そうとしている実践活動をレポートする。

『健康、友愛活動、社会奉仕』が市  
老連の三大目標です。このうち、  
社会奉仕の推進には、先ず地域との  
交流活動が根づかねばならないと思  
います。私たちの老人クラブの地域  
地盤は、三〇〇世帯程度の小じんま  
りとした団地ですが、殆んど住民  
は地方からの寄り集まりで連帯感が  
強いとはいえない。自治会のなかで  
も自分の殻に閉じ籠りがちの人が多  
く、住民相互の交流はいま一つといっ  
た状態です。一部の有志の方は、非  
常に気にしていますが、なかなか一  
朝一夕には望めません。







朝の体操会を終わって

私たちの老人クラブは、宮園松友会といい、前述の宮園団地のなかにあります。会員の老齢化がすすみ（平均年齢七十八歳）、いずれの部門においても活動は多く望めません。とてもプラス志向が期待できる状態ではありません。区老連、地区老連の立場でもだいたい似たようなことがいえるのではないかと思います。ただ、しっかりしたリーダーのいる部門（サークル）の活躍は目覚ましいものがあります。やはり、どうしても我々の活動には人材（リーダー）が必要であるところづく思っています。これからご紹介いたし

ますのは、私たちの老人クラブが主導権をとって実施しているわけではありませんが、クラブの幹部がそれぞれ参加し、地域の交流活動に協力している部門（サークル）です。これらの地域での交流がどんどん発展し充実していった欲しいものと考えています。このような活動は、先ざき地元老人クラブの増強にも結びつくものと期待されるわけです。

#### 保育所朝の体操会

地域内に宮野木保育所があり、平成五年五月よりクラブの有志の者が毎週水曜日朝九時半より先生、児童たちと体操会を開いています。先生が体操の指導をしてくれますが、保健上のメリットは勿論のことですが児童たちとの交歓も嬉しいものです。児童たちが、おじいさん、おばあさんと直ぐ親しみ懐いてくれたのは驚き、感謝しています。保育所では、この体操会に老人クラブ以外の住民の参加をも希望し、地域交流のすがたを児童たちの社会教育の一環として教えたい意図をもっていますが、なかなか思うようにはいかないものです。クラブの会員がそのなかに入り、なんとか地域（全般）交流の繋ぎの核となればと思っています。

#### シルバークラブ

この名称は、シルバークラブ（高齢者）＋ユニットピアを振ったものです。月一回、自治会館に集まり、福祉問題、バリアフリーの体験、地域の美化推進、新聞記事等の輪読、合唱など、奥さんが集まりやすいようなムードを醸し出して運営しています。リーダーは地元の方ですが、生涯教育の問題にも志向し、新しいかたちで我々を指導してくれています。この集いも、老人クラブと全くの無縁のものではありません。まだ発足二年ぐらいのサークルですが自治会も注目して援助してくれています。

#### 囲碁将棋同好会

老人クラブの幹部が主導して世話役となり、昨年発足しました。毎週土曜日の午後集まっています。囲碁、将棋の腕前を磨き勝負を競うことは元よりですが、同好の士同志の忌憚のない話合いがサロンとして楽しい時間となっているようです。自治会も力を入れてくれています。

#### 戸外太極拳

昨夏より有志が集まり公園で太極拳（楊名時太極拳）を毎朝演舞しています。いまは寒い時期ですので昨年十二月二十

日以来休止して、また温かくなってから再開の予定です。有志の皆さんは太極拳は初めての方ばかりで、特に先生はいませんがお互いに見よう見まねで一緒に演じ、最近はややかたかちになってきております。奥さん方のほうが積極的に、昨年の短期間ながらの仕儀で体調がよくなったという方が二、三人いました。奥さん方のほうが自分の健康維持に非常に気を配っていると感じております。

地域の交流のイベントとしてはまだまだ序の口で参加者はいずれも十人前後ですが、これから大きな輪に広がって欲しいと夢みています。老人クラブの幹部がそれぞれに参加しておりますが、

## 防災訓練実施

若葉区老連・若葉地区連桜寿会

会長 菊池 力

桜寿会が所属する桜木町第四町内会においては、頻発する地震と災害の惨状を重視して、地域住民の安全を図るために、

これらのイベントを通じて本来の老人クラブの増強に結びつけることが出来ればと念じております。『社会参加』などと格式張って考えるより自分たちの出来ることから、どんなに規模の小さいことでも、足を地につけて進めていくことが望ましいと思います。地域住民のなかには、かくすればいいことと分かっていても、いま一步踏み切れないという気持ちの持ち主が多いのではないのでしょうか。そういう人たちの為にも啓蒙の一步を拓いてあげるのも我々の立場ではないでしょうか。こういう面での努力を重ねていけば老人クラブの評価、増強にも必ずプラスとなって現れてくると思っています。

平成八年九月八日、若葉区役所職員駐車場を会場として、消防署指導のもとに防災訓練を実施しました。

訓練には小学生から高齢者まで約五十名が参加して、次の二項について熱心に行なわれ防災上貴重な体験をされました。

起震車による震度と対応  
消火器による消火実技

この訓練に参加した小学生からは後日

次のような体験記が寄せられ、防災意識の高さに心を打たれるとともに、家庭を守り、地域を守る成人にさらなる防災意識高揚が必要であると感じました。

### 子供達の体験記

起震車に乗ったこと

日當 仁美

起震車に乗ったのははじめての体験でした。一宮さんの家族と乗り、まず、テーブルにもぐりました。テーブルの足にかかりました。震度6か震度7くらいでした。震度6は人も立っていられなくがスの火も消せません。震度7は地われが



消火器による消火実技

## 高齢者学級

実 沢 江 地区気土

おこり震度6と同じこともおこり、山くずれがおこります。

ほんとうにあった時起震車に乗ったことを思いだして、あ、これは震度1かな2かなとか地震のことがわかります。でもそのほかに非常食品やいろいろなものを用意しておきたいと思います。

ぼうさいくんれんにさんかして

一みや たか行

ぼくは、九月八日にぼうさいくんれん

高齢者学級は、どちらの地区におかれても老人クラブ活動の一環としてよく実施されているようであるが、私共の地区でも公民館との共催により昨年十月から十回にわたって行なわれた。

医学上の豆知識を始め、異国文化、社会見学、レクリエーション、小学生との交流等の学習をテーマによって開講された。日頃はあまり接触の機会がない私にとっては、去る一月十八日に行

にさんかしました。はじめてきしん車にのりました。しんど7までたいけんしました。ジェットコースターみたいにはくりよくがあると思っていたのに、さい大のしんど7でも思ったほどのはくりよくがなかったのです。きたいはずれでした。きしん車の中はさすが4ことテーブルがあって、だいどころのようです。たてゆれとよこゆれがあって、よこゆれのときすわっている人の首が前と後ろに大きくゆれていました。

なわれた土気小学校六年生男女六十名との交流学級は誠に心にもこるものであった。教務先生のそれなりの指導はあったとは思われるが、実に見事で強く印象づけられるものがあつた。

当日の学習は企画及び司会、進行の総てを生徒諸君が、それぞれの分担にわかれて、誠によくやってくれた。某君の「はじめの言葉」から始まり、教務先生のおはなしに続いて児童の合唱曲は「心の飛行船」と「ラバーズコンチェルト」で其の後の出しものは老人によくテレビで親しまれている時代もので、「水戸黄門」や「遠山の金さん」の寸劇のほか紙

しょうぼうしさんがきかいのボタンをおすと、たてゆれやよこゆれになります。たてゆれとよこゆれをいっしょにやっていたときもありました。ときにはすわっている人が、いすからおっこちそうになったり、室のドアがあいたりしました。

しょうぼうしさんが「学校のひなんくんれんでやっていることを行ってください」といったので、ゆれたとき、つくえの下にもぐり、つくえの足をもちました。とてもたのしかったです。

芝居、手品等々バラエティに富んだ内容で、短い時間ではあつたが私共を充分たのませてくれた。次いで又質問コーナーでは、おじいさん、おばあさんが、今一番思っていることはどんなことですか、又子供のころはどんな遊びをしていましたか、楽しい想いではどんなことでしたか、お聞かせ下さい等々の質問があつて、老く会員の皆さんも、童心に返つての応募も有つて、何か久し振りにうちとけた、なごやかな雰囲気につつまれて和気あいあいの様子にみうけられた。

かつて数年前、矢張り小学生との交流を高齢者学級でもったことがあつた。学





高齢者学級—小学生との交流

生諸君が私共高齢者について、どんな感じを抱いているかを書いてもらいその文集を学校から見せてもらったことがある。内容を読んで次のようなことが書かれていたように思う。

祖父母は健在でいるが、故郷にいて生活しているのなかなか逢えないが矢張りなつかしい。又幼いころ両親と共に祖父母とくらししていた事もあったが、両親と祖父母との間がなにか折り合いがうまくない様子であったので、祖父母とはよく溶けあわないという児童もあった。更にお年よりは五十年前の戦中戦後を経験

しているので、当時のことをよく話してもらいたいとかいてくれた児童もあって暗い感じがしたが、その時の交流会とは異なり今回の学級は誠に明るく、たのしさが会場いっぱいにあふれる様な感じを深くうけることが出来た。

## 地域との交流活動

長洲常盤会 長岡 文一

私共老人クラブ常盤会の発足についていろいろと古老に聞いたところ、昭和二十五年頃隣組の制度が町内会と改まり、

今まで役員をしていたお年寄り達が寄合をつくったのが、始まりだとのこと、時代は移り変って老人クラブと称し町内の長老、高齢者の団体となっております。私共町内において行事を進めるには、老人クラブの参加なくては町内活動が出来ないというところになっております。面白い現象でもあります。町内会の執行部・役員、六名の内町会長、副会長、互選務部長一名と計四名が老人クラブ会員で、クラブ

会長・副会長にも推されている現状です。町内会の傘下には子供会・老人クラブ・婦人部とあり、年度総会に出席は老人ク

ともあれ私共老ク会員も先づ健康でお互いに助け合う友愛の精神と共に高齢者といえども社会に奉仕する心がけを以ってこの後も更なる頑張りとお前向きにきたいと、先生方と児童にお礼をのべ今回の交流会をつつがなく終ることが出来た。

クラブの会員が六割を占めており、地域との交流はこれ以上のものではありません。また町内会においては、春秋二回の町

内会員親睦日帰りバス旅行など行事として開催いたしております。勿論参加者の七割は老人クラブの会員で占められており、これも町内会の会長他役員が老人クラブの主力によって運営・企画・管理がなされておるためと思います。

また例年開催される敬老会の行事等にも、町会と地区民生委員の共催により開催されるものです。然し当町内においては民生委員もクラブ会員、町会長以下役員八割はクラブ会員で、企画・連絡総てに亘り老人クラブの行事のようになって有様で、招待する側にまた招待を受



成東浪切不動尊にて

ける側に、幕明けより幕引き迄せわしいことの上ありません。

昨年九月十五日開催の敬老会行事は毎年の様式を改めバスを運行県内観光も兼ね、九十九里浜近くで宴席を設けたところ大変によろこばれたこと、まだ知られざる旧蹟など訪ね大変勉強になりました。この行事には若い町会の方々の協力を得ておるところです。

好評により本年は若い人(町内の)に呼びかけ一層の交流を深める運動を進める所存です。

昨秋十一月二十四日帰り町内会バス

旅行を開催し笠森観音・鋸山・鴨川資料館・鏡忍寺を巡って帰る、兎に角あまり金を使わず、町内の方が親しくする場をつくること第一、この行事も行先がよく大変好評でした。

この行事の参加者中クラブ員が大半を占めております。

老人クラブは今後共馴染み易い集団で自然に入会をする如く、壮年時より交流親睦を深めておくこと肝要と思います。人は中々むずかしいものです。十人十

色と申しておるし、人付き合いのいい方悪い方、いろいろ、下にいて指示されるのはいやだ、上にいてお客様でいたい、人嫌い、ひっそりと過ごしたい、めんどうくさい、というこんな方が沢山おります。私もどこかにあてはまりそうですが、みんな地域の方が年寄りを輪にして仲良く過すように声をかけあうようにいたしたいと思います。写真を添えて以上地域との交流活動について申し述べました。

## 準会員が正会員を支える

### 『ひまわりの会』訪問記

社会福祉協議会真砂・磯辺地区部会編集部

『ひまわりの会』の皆さんとお会いし、まず感じたことは、年齢に関わりなくそれぞれのお顔が生き生きと輝いているということでした。もっと具体的に表現

すると、瞳が青年のそのように燃えているのです。毎日毎日が楽しくて仕方がないというように、身体全体が躍動しているのです。

すると、瞳が青年のそのように燃えているのです。毎日毎日が楽しくて仕方がないというように、身体全体が躍動しているのです。

「正会員よりも多い活動力のある準会員が支えていてくれるので、お年寄りは安心して行動できるのですね」と会長の佐藤吉司さん(67歳)はニコリ笑う。

昨年の2月に磯辺63町内会の皆さんを

確かに、一般の老人クラブではない。

「この会の基本は『親睦と助け合い』です。日常生活の場でも、また思いがけない非常の場合にもお互いに力になれるよう、日頃から会員の交流、連携に努めています。また、自治会が後援してくださるのもありがたいですね」と佐藤会長のトーンは益々高まる。

同会の目的には①高齢者と壮年者・子供たちとの対話、親睦、相互扶助を図る②ボランティア活動にも積極的に取り組み、社

会貢献の一翼を担う一が掲げられている。

『あんずの会』と命名されたボランティア部会をはじめ、囲碁・将棋、手芸部、詩吟、日本舞踊などいくつかの会が日頃から活動を行っている。まさに『生涯学習』を地でいっている感じ。『笑いの楽しい人生』も同会のモットーの一つで、日常行っているお茶会は明るい笑いが絶えず、会を重ねるごとに人と人との輪(和)が広がっていると。

## 菅義夫氏を悼む

作草部白寿会会長 安川 林



作草部白寿会の生みの親育ての親として三十年と云う長い間活躍されて居りました私達の恩師菅義夫さんが一月二十二日ご逝去されました。心よりご冥福をお祈り致します。

菅さんは非常に暖かいお人柄で情深く親切なお方でした。日頃健康には充分注意されて居り朝散歩や、花壇の手入れなどを楽しみにして居りました。在任中は会長職を二十一年、地区連会

長、また市老連副会長等を歴任されて居りました。

ここに生前の功績をしのび、哀悼の意を捧げる次第でございます。

△菅義夫さんのことば▽ 老人とは、①自分で老人と思う②ひとの厄介になる(身体の問題) ③やることがおっくうになる。この3つが該当した時だと思ふ。

老人クラブから退いてみて始めて老人になった気がする。孤独ほど淋しいものはない。老人クラブは孤独を救い、長寿の原動力となるコミュニケーションの場である。

3カ月に一回発行している『ひまわり通信』も楽しいイラストやカットが多くとても読みやすい。

今春実施した『磯寿会』との合同の高原千葉村旅行も大好評。また、8月下旬に開かれた磯辺夏祭りにも大勢で参加、リサイクルのフリーマーケットも大盛況で、その収益を基にして催された敬老の日の大茶会は大いに盛り上がった。

「この地域にいちばん合った型の老

人クラブを心ざしたいですね」と事務局長の柴田敏一さんが最後に力強くくしめくくってくれました。

▼フリーマーケットから



## 特別寄稿

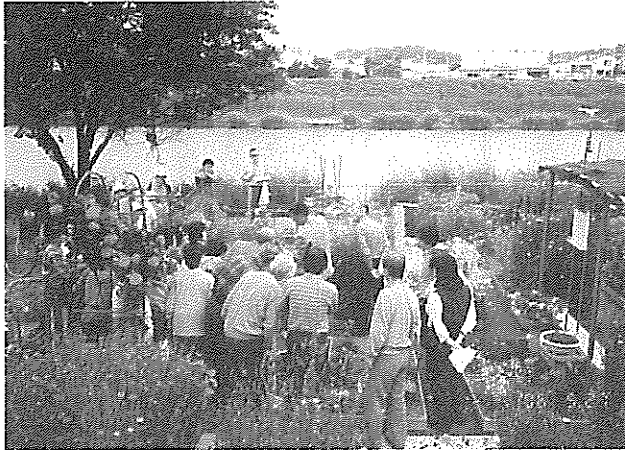
# 花いっぱい運動

八千代市野村長寿会・花の会 田辺 勉



寒い北風を防ぐ寒冷紗の衝立の内側で冬の陽射しを受けたパンジーが可憐な花を咲かせています。ここは花見川の上流大和田排水機場より北約三百米の新川堤防サイクリングロード沿いに、一昨年度元萱田町野村長寿会の同好者が荒地を片づけ土盛りして造った手造りの花壇です。私たち野村長寿会は、昭和四十四・五年に野村住宅団地がつくられ、約二百世帯が各地から移住してきたのですが、大半が東京へ通勤の会社員で通勤時間の関係で男の場合は自宅には「寝に帰る」という生活を余儀なくされてきた人が大多数でした。移住時三十五・六歳であったこれら働き盛りの人達も定年を迎え、今度は一日中団地内の生活に急変するわけです。長寿会には入会するものの、残念なことには団地内で男性同志の面識が以外なほど少なく顔と名前が一致しない等淋しい限りです。そこで長寿会発足の翌年の平成七年の春に団地隅に放置されていた

国有の荒地百三十㎡を毎週全員総掛りで造成し、畳一枚分の花壇を三十区画と中央ベンチ等を作り、更に受持ち各花壇に名札を立てました。早速春先の休日等には一家総出で花壇に来られ、四季の草花を育て楽しみ乍らスコップを片手に名札の名前を呼びかけては自然に会話がはず



園芸講習会 (H8. 5. 27)

みました。花壇の隅には共同育苗花壇と、小さいビニール温室もあり、種蒔きからポット苗まで協同作業です。又夜間照明もあって、夏はベンチで冬涼みや秋のお月見会もできます。

これからはこの花壇で咲かせた切花を長寿会の会員の誕生日にプレゼントするとか、老人ホーム等に贈る事を予定しており、更に花壇を拡げて市の「花と緑の基金」が推進している「花いっぱい事業」にも協力していきます。

私は長寿会の活動は長い間会社人間として組織に縛られてきた人がこれからはお互いに自然体で本音で付き合っていける楽しいグループでなければならず、それが地域の美化とか、僅かでも福祉に役立てばと考えます。

花は季節の移り変わりを逸速く知らせて呉れる自然からの使者です。寒くとも立春には花壇の培養土がふっくらと盛り上って、チューリップの芽先がのぞき始めました。

長寿会の会員は将来の日本を背負って立つ若い孫達の成長に最適の土壌を作ること常々心掛けていきたいと願っています。

# 提言 随想

## 私の提言

東建千草会会長 喜多村 仁

今年の元旦に思いがけぬ年賀が届いた。岡山の小学校同期生S君からであった。昭和一桁は老人に入らないと思います。百歳迄まだ三九年。頑張りましょう。N先生は百一歳でまだ京都で俳句を教えておられます」と・・・新年早々何よりの朗報に嬉しく勇気づけられた。何か目的を持ち前向きに行動する事が長寿の秘訣ではないだろうか。毎日新聞一月二十七日付に総務庁老人対策室の六十歳以上を対象とした資料が記載されていた。日本、韓国、タイ、ドイツ、アメリカ五ヶ国を対象とした調査によると「地域の行事催しに参加し社会と関わりを持ちたいか」との質問に対し日本が最高の三七・三％次にドイツ、タイ、アメリカの順で韓国は九・九％で最低であった。これに

対し「近所の人達との交流（毎日又は週四〜五回）」の質問に日本二三・九％と最低でありアメリカ、ドイツ、タイの順で韓国六五・一％と最高であった。この資料によれば、日本の六十歳以上の方は、地域の行事催しに参加を希望しながらも近隣との交流は充分とは言えない。近隣との交流がなければ地域社会との関わりを持つ事は不可能と言っても過言ではない。そこで近隣交流を盛んにし、地域社会との関わりを深めるには老人クラブの発展が必要と思われる。そのためには未加入者が加入を希望するような魅力ある老人クラブを作り上げなければならぬ。市老連の運営目的は「最後の生活を豊かにし、福祉を増進させる」であり、目的達成のためには会員一同結束し一層の努力が必要である。

高齢化社会を迎えるにあたり米国の老人クラブの如く、会員に対し政治を研修指導し、人材の育成に努め行政に対し老人クラブとしての中立公正な要請を堂々と主張出来る体制の確立を、そろそろ考慮する時期に来ているのではないだろうか。

## 会員の増強は可能か

西小仲台さくらクラブ

会長 小林 祥一

老人と高齢者は同じではない

- ◎ 老人とは、年をとり精神的、肉体的に衰えた者、と辞書に書いてある。
- ◎ 自身が意識しないうちに、高齢者の仲間入りとなり老人にされてしまう。
- ◎ 老人会とは精神的、肉体的に衰えた団体である。老人が会を運営出来る訳がない。このような会に、入会する者がいるだろうか。
- ◎ 自分が老人会に身を寄せたとき、どのような考えだっただろうか。
- ◎ 社会・行政との関連
- ◎ 高齢との理由で、能力の如何を問わず社会から追い出されている。
- ◎ 高齢者の仲間入りした精神的・肉体的に健全な者が高齢者たちの中心的存在になると思うのだが、勝手に老人にされたのでは、参画できない。
- ◎ 市の高齢者福祉課より単位クラブに支給される補助金について三〇〜六〇名までは、同一金額である。会員が六

○名以上になると、会を二つに分け、補助金を二倍受けられるようにする。なるべく三〇名位で運営する方が得策と先輩からの指導をうけている。したがって会の広がりや次代に引き継ぐ要素がない。

◎ 会を二つに分けた所は、内容のない統一に欠けた会となり、分裂が原因で毎年脱落しているのは周知の事実である。

◎ 上部団体（市老連）の会費は一人につき、三〇〇円は補助金の考え方と相違がある。会員の多いほど不合理である。

◎ 老人会と行政の、矛盾として挙げたいのは、単位クラブは上部団体に加入する義務がないこと、三〇人以上の会員が居れば、通常通り補助金が市から支給され上部団体の規制や、会費も無関係で全く独自の行動が出来る。地区連より入会の勧誘をするが、全く興味を

### 【会員増強に成功した事例】

平成8年4月・会員数 38名

平成9年1月・会員数 57名 60歳台 17名（30%強）

- ・（老人）を廃止、高齢者に。
- ・（老後）を無くし、余生に。
- ・（生き甲斐）を求めるのではなく、今日一日を充実して生きること。

◎ 例会・集会・行事の参加について、規制は設けず、会員は会の内容、方針を充分理解した上、自分の考えで行動するようお願いしております。

理由として会員は長年にわたり実社会を背負って来た方々で、常識と責任を持っており、会の目的と方向を示せば、必ず協力していただけます。

◎ 特に60歳台の方だけでなく、40～50歳台の壮年層にも理解を得られるように、クラブの方針や内容について広報で公開しており、その成果が一般にも広く表れております。

◎ 自治会には、クラブの会長が常任委員として在籍し双方のパイプ役を果たし、相互が協力して行事などの参画をしています。

◎ 例会も月2回、地区、自治会や各方面の報告、情報交換、福祉対策、行事の報告・計画、会員の意見交換等を行っております。

◎ サークルも、詩吟・ゲートボール・グランドゴルフ・輪投げ・手編み手芸・囲碁・将棋を採用、サークル内での交流も視野に入れ、小回りのきくクラブ活動を始めております。

（西小仲台さくらクラブ）

◎ 示さない。上部団体に交渉しても返答がない。  
◎ 原因としては、上部団体の機能が全く働いていない。メリットもないのでは。

◎ 市老連役員の話では、昨年度で前述の単独団体が、既に十五クラブ五〇〇名以上に達しており、まだ増える状況にある。規制の方法はないとの事。  
◎ 正規の団体が減少傾向であるのに対し、前記の団体が増加しているのに、何の解決策もせず会員の増強を推し進



めるのは、如何なものか。

◎ 老人の名称は現代では通用しない。クラブの一翼を担う六〇〜七〇歳台の方々は個人差はあるが、老人ではない。

◎ 行政では(老)の呼称を廃止して高齢者・シルバー等の名称を使用しているが前述の不名誉な(老)を使用している老人クラブ連合会(全国・県・市区・地区・単位クラブ)は、何を考えているのか。

◎ 研修会(会員増強)で市老連に前記の改善を申し入れたが、何の返答もない。

◎ 以上の点から増強どころか、ブレーキがかかり、維持も困難な状態である。

◎ 単位クラブとしては、いつも高齢者の仲間入りをする方々(六〇歳台)が執行部に携わるようにする。今までの執行部も年を重ねる毎に、老人になってゆく為、いつも執行部(六〇歳台)の会員になる方々を啓蒙し、増強を図ることが必要。

◎ 従来は現会員が、実質的な老人になって行くと、執行部の養成をやっていないので増強どころか、廃止につながる。

## 分を知る

都賀地区連合会 保坂 三男

今我が国は世界一の長寿国となった。誠に同慶至極である。平和が続き、経済の発展にともなって、医療福祉の進歩と充実により長命の条件が整った現在、益々高齢化は進み、八十年代より九十年代も夢ではない。然しそれには高福祉、高負担の条件が付きまとう。政府は現在の福祉予算を国民所得の四十%以下におさえるべく努力しているとのこと、それ以上になると勤労者の負担増大を招き、社会の活性化にも影響を招く恐れもある。消費税や赤字国債の発行にも限度がある。西歴二千年の日本の総人口は一億三千三百万人となり、六十五歳以上の高齢者が人口に占める割合は二一・四%となり更に十年後の高齢人口比は四・三人に一人が六十五歳以上の長寿社会となると予想される。

それに比例して、独り暮らし、寝たきり痴呆等の要介護の高齢者は増加する。それに要する福祉の予算は膨大なものとな

り、国家の予算を怯<sup>おび</sup>やかすことにもなる。西歴二千年が輝しい豊かな長寿社会となる保証はないと警告する人さえもいる。

現在の私達は国家の恩恵を十分に受け老後を楽しんでいる。千葉市の福祉の現況に於ても医療費の小額負担、公共施設、老人憩いの家、福祉バス運行、等無料となっている。誠に有難い事と感謝している。

而し其の反面現在の福祉や医療に対し私達が改善すべき点が多くある事も認めざるを得ない。例えば医療の面に於ても中には九種類以上の大量投与が10%を占め、ある呼吸器と循環器疾患の老人は貼り薬をふくめて、二十八種類の薬を与えられた例もきく。薬害の心配もある。医者への「かかりすぎ」、「薬の飲みすぎ」。患者は患者がへれば収入がへる。薬を多く出すことによって収入増となるこの「ジレンマ」を解決するには私達患者自身が冷静に判断して対処しなければ解決されない。「脳死」や「ぼけ」「ねたきり」等、若し自分がそうなった場合を想定し家族と日常の会話も必要な事と思つ。社会構成の理念は「共存共栄」にある。

各世代がそれぞれの立場で努力する。少年は少年として、青年は青年の立場で、壮年者又然り、老人は老人として何をなすべきかを知る。アメリカ大統領ジョン・ケネディーが、「私は諸君が国家の為に何をなしてくれるかを期待する。」と言う様な話をしたそうだが、私達もせめて地域社会の為に少しでも役立つ事を考え、努力することによって余生の歲月も又、生き甲斐のあるものとなり、二十一世紀が豊かな長寿社会となる事を願うものである。

私は日常左の如く心得としている。

最後まで

誰の世話を受けることなし

希望を持って

毎日を楽ししく過ごし

社会に対し

何らかの役に立つ事をして

そしてある時

「コロリ」とこの世を去る



## たわごと

高洲地区 三浦 一郎

想い出は山ほどある。幾く話しても話し切れない程ある。八十七年間が全部

想い出である。夢は少しもない。明日はどうなるのかどう生きるのかも判らない。でも毎日何かやっている。何も無い時は往來のゴミを拾っている。余計なことをするなと婆さんに怒られる。寝坊だから日の出は拝めないが夕陽は至るところで眺めている。今日も真赤な夕陽が東京灣の彼方へ没んで行く。その早いこと見る間に房州の彼方へかくれてしまう。あの太陽は毎日同じことを繰り返している。実際に平凡である。よく呆きないで繰り返えしている。これをなんだつまらないと全く無関心の人々が多い。全くつまらないことのように思うが、若し、あの太陽が無かったら—と思うと一体この世はどうなるのだろうか。

僕は物心がついてから今日まで天国も見たし地獄も見たから、もう何も怖いことはない。人の愛情にくるまって、あゝ

有難い嬉しい人間に生まれて幸せだったと思うことが幾度もあった。又、当然死ぬ筈の災害にも幾度か遭った。どうして助かったのか自分にも人にもわからない。運命と言ってしまえばそれまでだがその運命とは一体、何んだろうかといくら考えてもわからない。

この大自然の中で、何種類あるか判らない生きものの中で組織だって生活している最高の生物は人間だから人間の生活を幸せにする活動こそが最大の仕事だと思うが、これが又むずかしい。損得勘定がつい先にたつてしまつて二の足を踏んでしまう。もっと勇氣を出そうと考えている。人間の幸せの為に、犠牲になっている他の動物植物のことを考えると悲しくなる。青い地球を汚ごさない様に、平和で幸せな暮らしが続きます様に皆さんで考えながら今日一日を元気で働きましょう。



## 交通安全に一言

欧米にくらべ日本の車社会はどうやら  
発展途上国のようだ。

千葉北警察署でも高齢者の事故防止のために、各老人クラブから二人のシルバリーダーを委嘱し、ときおり懇談会とか勉強会のようなものをやっているが、ビデオを見ても交通課長の話を聞いても、どこかおかしい。

高齢者の交通事故の七割は歩行中か自転車で、しかも夕方から夜間に集中しているという。また事故は自宅から五〇〇メートル以内が一番多いという。

そこで交通安全対策だがその方法といえば、車から身をまもることばかり。オーバーな言い方だが「お車さまのお通りだ。そのけ、そのけ」と交わりはない。曰く。夜間外出するときは明るい目立つ服を着るとか、夜は出かけないようにとか、靴のかかとや袖などに反射テープをつけて運転手が見やすいようにしろとか、遠まわりしても歩道橋や横断歩道を渡れとか、まだまだつづく。

誰が好きこのんで危ない道を渡るもの

か。横断歩道は遠いはるか向こうだ。歩道橋はあっても時折元氣な子供達が駆け上ったり下ったりするのを見るぐらい。高齢者泣かせのものだ。車のために外出のタンビに着替えたり、そんな衣類もなければ時間もない。こう並べてみると、車優先の交通安全運動ということになる。

狭い日本でこれだけ車が多くなると交通安全対策は一八〇度発想を転換する必要がある。

ドイツなどのように横断歩道は両側の歩道と同じ高さに盛り上げて、スピードを落さなくてはならないように工夫する

## 新春放談

みつわ台長寿会 落合 初郎

初夢を見た。あまり良くない夢だった。しかしこの夢を反芻してみても、もう言わずには居られない。ここまでテレビとの関係が密接になった現在では……。

民放のどこの番組スイッチをひねっても大人が、いい年をした大人が馬鹿なことばかり言い、ふざけて面白がっている

とか、横断歩道をたくさん作るとか。住宅地は出会いがしらの事故が多いのだから車が走りにくいようにするとか、進入禁止区域を作るとか。人間優先の交通安全策が必要ではないだろうか。

予算がない。冗談じゃあない。会計検査院のムダ使い摘発のものを廻してもらえばいい。議員さんやお役人の方の視察という名の海外旅行やカラ出張、カラ手当だつていくらでもある。

いいとか悪いとかの段階ではない。車優先の発想はやめて、人間優先、人間尊重の交通安全対策こそ焦眉の問題だ。  
(穴川 広居 量一)

のがテレビ……。

馬鹿なことを言っている自分達で楽しみ、クイズばかりしているのがテレビ……。(局は金をかけずに済む)。

他人のプライバシーを報道し、興味本位に流し、そして視聴率競争にうつつを抜かしているのがテレビ……。

そしてこれらに出てくるタレント俳優などが、さも有名人かえらい人間かのような宣伝振る舞い、子供達にサッカクを起させる……。ドラマといえは浮気、

殺人、メロドラマ。

こんなものばかり見て育つ子供がロクな者にならないのは当たり前、そしてこれ等が大きくなった大人は、これまたロクでなしの集りになる。ロクでない事件が起るのは当たり前……。

ならば見なけりゃいいじゃないか、と言う。もうそんな段階ではない。

大人という者は馬鹿ばかり言い、ウソをつき、金儲けだけ考えていると子供達が思うのも当たり前……。

## ねんりんヒップ 宮崎大会に参加して

宮崎駅に着いてみれば関係役員が勢揃い。可愛い幼稚園の園児たちがお出迎え。頭をなで「ご苦労さま、大変ですネ。ありがとうございます」と声を掛けるとニコッと笑みを浮べた。

三年がかりで準備をした大事業、いままさらながら感心した。総合開会式の大会場もワシントンヤシ、フェニックス、ソテツ、ピロージュなどの大木や季節の花に包まれて、南国ムードいっぱいだった。

どうなってんだ、日本のメディアは？

もうかれこれ四十年も前に、当時の毒舌評論家大宅荘一氏はいみじくも言った。「テレビはその中、日本国民一億を総白痴化してしまおう」と。私は忘れない。予感があった。まさに今が当たっているのだ。

それにしても明治の日本人、大人は貫禄ダツタネー。しかし之らを知る人も少なくなつた。アー。

もう言わずには居られない。今年こそは聊か自粛されることを。

テーマは「太陽の国ひらく長寿の夢ベージ」素晴らしい。高齢者が健康で、心豊かに安心して暮せる生涯とか、活力ある生きがいづくり、世代交流の促進を図る、21世紀時代。いろいろな言葉で現わす元氣いっばいの参加者六千二百人堂々の勢揃い。人の波々、天気にも恵まれポカポカ陽気の小春日の会場では地元の高校生と小学校五、六年生三百人位が宮崎神社由来の伝説神楽舞、古式ゆかしい舞を東西の大太鼓、小太鼓に合わせて舞ったが、現代風にアレンジされた踊りは色も鮮やかに見事だった。リゾート施設の大きさ、立派さ。素晴らしいところで全国から集



まった人々との「ふれあい交歓会」にも参加し、自由に話し合うことも出来て深く胸にきざまれた思い出の大会だった。閉会式では次の開催地山形の高校生五十人が太鼓のリズムにのって、名所、旧蹟を歌いこんだ花笠音頭を踊ったが、自分の生れた国だけに何かホッとした気分が会場を後にした。

(若葉地区 来生 三)

# 君津の友と交流会

君津市老連女性委員会（九三名）

千葉市老連女性部（三〇名）

日時 平成九年二月四日午前十時

会場 千葉市役所 八階正庁

はじめに千葉市老連、新生会長挨拶に続いて君津市老連、神田会長の言葉があ

市役所正庁で研修会



り両会長とも老人クラブ活動の活性化に

は女性の力が欠かすことが出来ない、大

きな力であることを強調された。千葉市

女性部、君津市女性委員会は、女性を理

解して下さる会長を頂き幸せであると久

力部長が感謝の言葉を述べられ、女性の

特性を発揮して更なる協力をお願いしますと

強い決意を誓われた。君津の佐藤女性委

員長は先輩である千葉市の皆様と交流が

出来て此のうえない幸せです。私達は資

料を持参しません。千葉から沢山の資料

を頂きましたので今日は皆様方からの日

頃の御活動について御指導いただきたい

との御希望により君津市、千葉市の概況、

現況報告に続いて

(1)組織の確立と活動への取り組み

(2)女性部と市老連との係りと独自性を考

慮

(3)重点目標樹立と地域性を生じた年間

行事計画の設定（市、区、地区、クラ

ブ）資料の説明

(4)重点目標について、それぞれの担当

者が発表や説明をしたが時間が足りな

くて十分な発表が出来なく残念との発表者からの声も聞えたが資料の提供があったので満足されたと思考、先ずは上々の成果でした。

(5) 質疑に入り会費、活動資金、についての御尋ねに対し久力部長の適切な応答で充分納得されたと思う。

終って中食を済されて各市老連使用のバスで成田山新勝寺を参拝し御利益を信じてつつ笑顔で再会を約して御別れ。

これで本日の交流会の行事日程がとどこおりなく終了した次第です。

## △寸評▽

1、今までにない有益な研修会であり今後此の種の研修会を重ね更なる活動を御期待します。

2、君津の老会員から俺達農家の者で何にも言えない。今日は町の皆さんから珍しい話を聞きたいとの発言もあった。今後此の点も考慮して純農家での暮し、商店街での活動、団地内の生活等環境の異ったクラブとの交流会が欲しいなあと思いました。

（広報部 長谷川文吉）

# かたく結んだ絆

## 花見川と北淡町の友愛

### いまでも続く心の文通

花見川地区連では、阪神大震災の時、慰問文七十通に千葉の菓子添えて送ったのがきっかけで、現在では四十二名の方が勇氣と希望を与える心の文通を続けております。

又、一月八日真心込めて編んだ手編みの作品百十三点を、大きな梱包で送り、現在、三矢地区連会長のもとへお礼の手紙が次々と届いております。

昨年六月「マジックタワシ」と慰問文と共に送りました所、北淡町教育委員会発行の「地震に関するあらゆる資料」と共に「あの日を忘れない」の文集、又貴重なビデオテープが届きました。各単位クラブを回覧しましたが、文集を読んだ人は皆泣きました。被害者しかわからない苦悩の心境を思い涙がとまりませんでした。ビデオでみる現地は、破壊された家々、押し潰された家の中から、手と頭を出して助けを求める映像を見て、他人事でない天災の怖さに身震いしました。被害者の方々のこれからの幸せを心の底から祈らずにはいられません。振り返って今思う事は、地区連が一括して淡路島との友愛活動を続けた事に依って我が地区連は蘇生し活気付いて来ました。特に

嬉しい事は他人の事を思いやり他人の幸を願える心の尊さを実践の上から得た事だと思えます。地区連の活動場所に、花見川公民館を選んだ事も大成功でした。公民館の広い部屋で、月二回レクダンスに手芸、講演等、多目的な地区連の活動が楽しく活発に行われるおります。新しい友好の輪も広がり、友情の花があちこちに咲いております。何と言っても八人の女性部長の呼吸がびったりで、色々な発想が生まれております。中には小さな潰れそうな単位クラブも有りますが、一緒に巻込んでお互いに力を合せ、明るく楽しく友愛活動に取り組む事は、地域社会に於ても、何と力強い尊い活動である事かと実感している昨今です。

時代は超高齢化社会を迎えようとしている現在、最も大切な事は「どれだけ生きて行くか」の問題だけでなく「どう生きて行くか」と人生に於ける質の問題が大切になって来ました。

私は世界三十三ヶ国を訪問し、老人との対話を続けておりますが、福祉に恵まれたデンマークの老人の自殺者世界一を思えば、貧しいアフリカの地で遅く生れ抜く老人の方が最も価値ある尊い人生だ





### お礼のお手紙

阪神大震災から満2年が過ぎて、北淡町では公営住宅も建てられ、3月末には相当の入居から予定されていると聞くが、老人夫婦で家を建てられない、公営住宅にも入れない人が数多くおりますと、兵庫県北淡町から花見川地区連にお便りがとどいた。

花見川地区連では手編の帽子、靴下など130点を見舞品として送った。(写真は見舞品の発送を前にして地区連のみなさん)

と思います。友愛活動を通じて思う事は、お一人、お一人を大切に助け合い乍ら、赤赤と燃え輝き乍ら沈み行く夕日の如く、お互の人生の総仕上げを大切に、仲良く楽しく取り組んで参りたいと思っております。

(花見川地区連女性部長 宮口みつい)



このたびは沢山のお見舞品をお送り頂きまして本当にありがとうございます。真心のこもった手編みの手間のかかる品々、衷心よりお礼申しあげます。近日中に会長が開かれますので配分させて頂きませ。(中略)

私の所属するクラブは37家庭、53名の小さなクラブです。37家庭のうち15家庭が全壊、残りは半壊と3家庭の部分壊でした。田舎ですから母屋のほか裏座敷や納屋をもっていますので、仮設住宅には入っておりません。(中略)

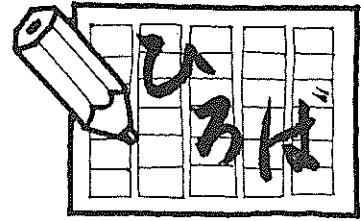
あと少して満2年を迎えます。私も微力ですが、老人会の発展に尽力しています。(中略)まだ寒い日が続きます。会員の方々にくれぐれもよろしくお伝え下されば幸甚です。

ありがとうございます。

兵庫県津名郡北淡町生田大坪

山本市郎

三矢 金吾様  
宮口みつい様

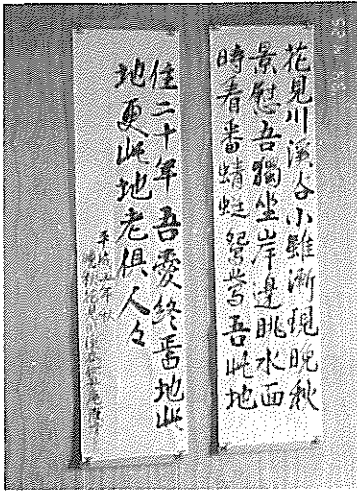


漢詩

鷹の台いずみ会 三矢 金吾

花見川溪谷

花見川溪谷小なりと雖も  
漸く現す晩秋の景は我を慰む  
独り岸辺に坐して水面を眺むるに



時に看る蜻蛉と番の鴛鴦とを

吾此地に住してより二十年

毎日の如く歩す河畔の道

吾は愛す終焉の地とならん此地と

更に此地の老俱の人々とを

短歌

ちとせ会 高野 智行

暇ゆえに習い覚えたゲートから

生きるマナーの尊さを知る

なにもかも衰えゆくは老の常

変らぬものはいびきだけなり

病床にありて賀状をめくりつつ

なつかしき友の面影しのぶ

玄関に孫らの声のきこえくる

病の床よりやおら起き出づ

元朝の神棚の燈明ほのぼのと

わが拍手にしばし揺るるも

俳句

長沼協和クラブ 栗原 敏

鱒のあら連れ買ひもする二月かな

太葱や在所の土をつけしまま

行商の背に残り荷と北風と

小仲台 狩野 喜美

水仙

水仙の花言葉添え見舞状

着ぶくれて盛りの梅の花に酔い

干 種

大寒に水仙の花よく似合

健やかと知らせの便り戦友八十路

重油流出 轟南延寿会 凌 樹

荒海や柄杓持つ手に雪ふぶく

かさかさの手を悲しみて冬日向

海鳴りや油塊雪の三国町

寒 椿 轟南延寿会 延 子

木の齡を花が隠して寒椿

羊羹の切口かわく寒の入り

今年から一人でありし雑煮汁

みつわ台寿会 桜沢 直

追儺式 鬼に化けたる作男

川上 きぬ

初売りの荷の積まれあり仁玉門

中山 花

冬晴れや筑波遙かに一竹展

菰解けばもりあがりくる蘇鉄かな

散りつくし銀杏並木の空広し

正月や猫が番する水揚げ場

ぼろ市の人に混りてふところ手

川島 希世

冬ぬくし車の来ない線路浴い

都賀地区 保坂 三男

連れ立ちて友と巡るや七福神

藤井 幾代

どんと焼笙の音色に誘われて

亡き妻の甘煮を偲ぶ冬至かな

賑やかに一族揃う春座敷

江の島を望む菩提寺黄水仙

ちとせ会 高野 智行

木村 孝舟

細井 弘苑

座を立てばタンポポ共に立ち上がり

浮雲の緑光りそむ初菫

浜風に香り届きし野水仙

梅咲くや小鳥飛び交う影法師

口紅を濃く一人の氣構え初鏡

静けさに何時か門松取り去れる

寒川地区 小野 恒子

佐藤 静香

御園生保久

寒牡丹

風神の子が来て触るる梅の花

身を正し仏間に寄りて祝う屠蘇

売声の遠ざかりゆく寒夜ふけ

受験子の絵馬は大きく知慧文殊

藍淺葱空に堂々初日出づ

静けさに何時か門松取り去れる

大寒の星ちりばめて漁りの火

竹谷 玉乃

安原 碧牛

佗助や真間の手古奈の彩こもる

羽子板のかんざし揺れる京舞妓

おでん屋の客みな手の湯気の中

戸袋に風の覗くや寒牡丹

カルタ取り読みて上手な恋の歌

川風を背に多聞寺や初もうて

稲毛台睦会俳句の会 (一月句会)

富田 きん

吉原 水扇

伊佐治文衛

うすよごれ白梅咲けりピルのかげ

年あらた卒寿むかえて老を知り

白菜を洗い残して猫とじやれ

寝しずまる家並ぬらして時雨過ぐ

寒鴉寒さ告ぐるか朝明けに

松過ぎし七福神は皆静か

# 編集後記

▼年二回の発行！忘れた頃にやってくる、アレです。当然ニュース性はゼロに近い。その時点のものが編纂のテーマになるわけで、五号の場合は「活力ある長寿社会に向けて」6号は「会員増強で組織の拡充」となった▼実践活動のレ

ポートは夫々に特長をもったもので、特に社協地区部会の編集部という第三者の目から見た訪問記は異色でした▼ところで贅沢は言えないが紙面にゆとりがない。かうじて「ひろば」の文芸作品で一息という格好です▼会誌だからそれでもいいわけですが、今年の活動項目に「会誌市老連の発行等広報活動の展開」とある。そこでせめて会誌の合間に簡単なニュースペーパーのようなものを流せたら、市老連はもっと近い存在になるだろうナと思ひながら後記としました。(凌)



## ちば市老連 第六号

平成九年三月一日発行

編集 広報部編集委員会

発行 社団法人

千葉市老人クラブ連合会

〒260 千葉市中央区中央一―三―一

千葉市社会福祉事業団ビル

☎ 〇四三(二二四)二〇五〇

印刷 有限会社 宮坂印刷

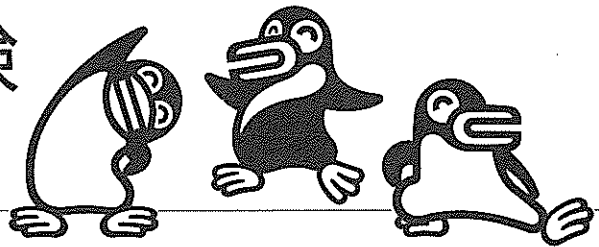
〒263 千葉市稲毛区轟町一―八―一六

☎ 〇四三(二二五)四五三七

FAX 〇四三(二二五)四五三五

# 老人クラブ保険

クラブ活動中のケガを補償する  
会員のための保障制度です。



## 掛金と補償額

### Aタイプ

掛金  
年間1,000円

補 償 額	ケガによる死亡	100万円
	ケガによる後遺障害	最高100万円
	入院	1日につき(180日限度) 1,500円
	通院	1日につき(90日限度) 1,000円

- ※入院は、全治7日以上ケガのみ対象
- 年間掛金500円のBタイプ(補償額Aタイプの半額)もあります。
- 手術が必要な場合、付添人が必要な場合、上乗せして保険金が支払われます。

## 保険の特長

- ♡ 老人クラブ会員は、だれでも加入可能。年齢制限一切なし。
- ◇ いつ掛金を振り込んでも、翌月1日から保険は有効。

お問い合わせは



各都道府県・指定都市老連または全国老人クラブ連合会保険係まで  
100 東京都千代田区霞が関3丁目5-1 霞が関IHFビル1階 ☎03-3597-8770